NRA

Web サーバ設定ガイド

（nginx クライアント証明書認証編）

2025 年 01 月 22 日

Ver. 3.00

改訂履歴

版	日　付	内　容	備　考
Ver. 1.00	--	初版作成	
Ver. 2.00	2019/5/22	nginx1.15.12 に合わせて見直し	
Ver. 2.01	2020/9/8	「server.cer」⇒「server.crt」に変更	
Ver. 2.02	2020/11/10	CA4 に対する記載を修正 Appendix5（中間認証局の確認方法）を追記 スクリプト例の誤植修正	
Ver. 3.00	2025/1/22	ルート、中間証明書および CRL を新認証局(G2)に変更	

<目　次>

1. nginx のクライアント証明書認証設定について

nginx1.15.12 でクライアント証明書を使った認証を行う場合の設定は以下の 3 ステップで行います。

1.サーバ証明書（SSL 証明書）をインストールして、SSL 通信を有効にする
　※サーバ証明書（SSL 証明書）は別途ご用意してください
2.クライアント証明書を発行した認証局の証明書（CA 証明書）をインストールしたのち、nginx がクライアント証明書を要求するように設定する
3.クライアント証明書の失効リスト（CRL）を設定する

【本資料における注意事項】
中間認証局 CA4 G2 を使用する場合は、本資料における「Nippon RA Certification Authority 3 G2」および「CA3 G2」という記載を「Nippon RA Certification Authority 4 G2」および「CA4 G2」と置き換えてください。使用する中間認証局の確認方法については、Appendix5 を参照ください。

2. SSL サーバ証明書のインストール

クライアント証明書認証を行うにあたって、まず nginx の設定にて SSL サーバ証明書をインストールし、通信の暗号化（SSL 化）を有効にしている必要があります。

※SSL サーバ証明書は別途ご用意ください。

① SSL サーバ証明書と秘密鍵を Web サーバに保存します。

② nginx.conf 設定ファイルの server セクションにて SSL 通信（443 ポート）の有効化、及び以下のディレクティブで設定します。

・SSL 通信（https）の有効化

・SSL サーバ証明書の指定→ssl_certificate ディレクティブ

・SSL サーバ証明書の秘密鍵の指定→ssl_certificate_key ディレクティブ

（例）

```
server {
        listen 443 ssl;
              ～～～
         ssl_certificate “配置 PATH”/server.crt;
         ssl_certificate_key “配置 PATH”/server.key;
}
```

※セキュリティに関連するディレクティブは割愛します。

※具体的な値を用いた設定は、後記の「Appendix1」をご参照ください。

③ nginx 再起動

Web サーバで以下のコマンドを実行し nginx の再起動（設定のリロード）を実行します。

```
nginx -s reload
```

ここまでで SSL サーバ証明書がインストールされ、SSL 通信（https）が行えるようになります。

【参考資料】

サイバートラスト・SSL サーバ証明書サポート

サーバ証明書の設定に関する資料を多数掲載しておりますので、ご参照ください。

https://www.cybertrust.ne.jp/sureserver/support/tec_download.html#01

3. クライアント証明書認証

3.1. CA 証明書の配置

日本 RA のルート証明書および中間証明書をリポジトリより取得します。
（後記 Appendix4 のルート・中間証明書で準備いただけます）
これらの証明書は弊社のクライアント証明書認証を行う場合に必要となります。

■NRA リポジトリ
https://www.nrapki.jp/client-certificate/repository/

・ルート証明書 G2　　Nippon RA Root Certification Authority G2
・中間 CA3G2 証明書　　Nippon RA Certification Authority 3 G2
・中間 CA4G2 証明書　　Nippon RA Certification Authority 4 G2

※後記 Appendix4 の CA 証明書（nra.crt）は、弊社のルート証明書(G2)、中間証明書（CA3G2）、中間証明書（CA4G2）を結合して 1 ファイルとしたものです。

CA 証明書（nra.crt）はテキストファイルです。テキストエディタ等で内容をご確認いただけます。
CA 証明書（nra.crt）をサーバに配置します。

3.2. CA 証明書の設定

nginx.conf の server セクションに、以下のディレクティブで CA 証明書のパスを指定します。

(例)

```
ssl_client_certificate "配置 PATH"/nra.crt
```

location セクション内には記述しない

3.3. クライアント証明書要求を有効化

nginx.conf の server セクションに、以下のディレクティブで設定します。

(例)

- クライアント証明書による認証を有効にする
- ロケーションが複数ある場合は以下の例のように OR で指定する
- NRA の発行局（例では CA 3 G2)、且つ条件に合致した証明書のみを受け付けるように設定する

```
server {
        listen          443 ssl;

        ～省略（ホスト名、SSL サーバ証明書 等のディレクティブ）～

        ssl_verify_client on;
        ssl_client_certificate 配置 PATH/nra.crt;
        ssl_verify_depth 3;

        <Location /仮想ディレクトリ/(パス 1|パス 2|パス 3)>
        if ($ssl_client_i_dn !~ "CN=Nippon RA Certification Authority 3 G2") {#←証明書発行元が、NRA 発行局"
         return 403;
        }

        if ($ssl_client_s_dn !~ "O="<条件値>" ") { #←O:の値は、証明書発行時の英字法人名"
        return 403;
        }
        </Location>
        ～～～
}
```

※セキュリティに関連するディレクティブは割愛します。

※具体的な値を用いた設定は、後記の「Appendix2」をご参照ください。

※設定を有効にする場合は、Web サーバで「nginx -s reload」コマンドを実行して nginx を再起動（設定をリロード）してください。

【補足】

nginx のドキュメンテーション

参考 URL：http://nginx.org/en/docs/

4. 失効リスト（CRL）の設定

4.1. CRL の取得

失効リスト（CRL）を以下の配布ポイントから取得します。
nginx の場合、配布ポイントから取得した DER 形式の失効リスト（CRL）ファイルでは読み込めないため OpenSSL コマンドにて PEM 形式に変換して、任意のディレクトリに配置します。後記のサンプルスクリプトプログラム内で PEM 変換のコマンド例を記載します。

【失効リスト（CRL）の配布ポイント】

・ルート認証局 G2（Nippon RA Root Certification Authority G2） の失効リスト
http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRARootCertificationAuthorityG2/cdp.crl

・中間認証局 CA3 G2（Nippon RA Certification Authority 3 G2）の失効リスト
http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRACertificationAuthority3G2/cdp.crl

・中間認証局 CA4 G2（Nippon RA Certification Authority 4 G2）の失効リスト
http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRACertificationAuthority4G2/cdp.crl

配布ポイントから取得した失効リストファイル（DER 形式）をそれぞれ PEM 形式に変換した後、cat コマンド等でマージしたものを nginx に設定する失効リスト（CRL）ファイル（crl.pem）としてください。

4.2. CRL ファイルの設定

nginx.conf の server セクションにて以下のディレクティブで設定します。

（例）

```
ssl_crl "配置 PATH”/crl.pem
```

※具体的な値を用いた設定は、後記の「Appendix3」をご参照ください。

4.3. CRL の自動取得＆更新

以下のサンプルスクリプトを適宜修正し、cron 等で自動実行するよう設定します。

```
#!/bin/sh
cd <<失効リストファイルダウンロードディレクトリ>>
wget 'http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRARootCertificationAuthorityG2/cdp.crl'
openssl crl -inform der -in cdp.crl -outform pem -out crl_root.pem
wget 'http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRACertificationAuthority3G2/cdp.crl'
openssl crl -inform der -in cdp.crl -outform pem -out crl_ca3.pem
cat crl_root.pem crl_ca3.pem > crl.pem
cd <<失効リストファイル配置ディレクトリ>>
rm -f crl.pem
cp -p /<<失効リストファイルダウンロードディレクトリ>>/crl.pem ./
nginx -s reload
```

【補足】

中間認証局 CA4 G2 を使用する場合は、スクリプト例の「3」と記載がある部分をすべて「4」に置き換えてください。

以上

5. Appendix1（SSL サーバ証明書のインストール：具体例）

「２．SSL サーバ証明書のインストール」について、具体的な値を用いた説明は以下のとおりです。

① SSL サーバ証明書と秘密鍵を Web サーバに保存します（ここでは以下のとおりとします）。

・SSL サーバ証明書ファイル：server.crt

・SSL サーバ証明書の秘密鍵ファイル：server.key

・Web サーバでの保存先ディレクトリ：/etc/nginx/temp

② nginx.conf 設定ファイルの server セクションにて SSL 通信（443 ポート）の有効化、及び以下のディレクティブで設定します。

・SSL 通信の有効化**（A）**

・SSL サーバ証明書の指定→ssl_certificate ディレクティブ**（B）**

・SSL サーバ証明書の秘密鍵の指定→ssl_certificate_key ディレクティブ**（C）**

■nginx.conf 設定ファイルの server セクション設定例

```
server {
        listen 443 ssl;                                          ―― （A）

        server_name   xxxx;      #環境に応じて設定

        ssl_certificate           /etc/nginx/temp/server.crt;    ―― （B）
        ssl_certificate_key       /etc/nginx/temp/server.key;    ―― （C）

        location / {
            root    /usr/share/nginx/html;
            index   index.html index.htm;
        }
    ~~~~（以下省略）
}
```

【補足】

・nginx をデフォルトでインストールした場合、設定するファイル（server セクション）は「/etc/nginx/conf.d/default.conf」になります（nginx.conf 設定ファイルはこのファイルをインクルードしています）。

6. Appendix2（クライアント証明書認証：設定の具体例）

「３．クライアント証明書認証」について、具体的な値を用いた設定の説明は以下のとおりです。

① CA 証明書を取得し Web サーバに保存します（ここでは以下のとおりとします）。

- CA 証明書ファイル：nra.crt
- Web サーバでの保存先ディレクトリ：/etc/nginx/temp

② nginx.conf 設定ファイルの server セクションにて、以下のディレクティブで設定します。

- クライアント証明書による認証を有効にする**（A）**
- ロケーションが複数ある場合は以下の例のように OR で指定する**（B）**
- NRA の発行局、且つ条件に合致した証明書のみを受け付けるように設定する**（C）**

（１） NRA の発行局（CA3 G2 で発行された証明書のみ受け付けます）

CN=Nippon RA Certification Authority 3 G2

CA4 G2 を使用している場合は以下の通りとなります。

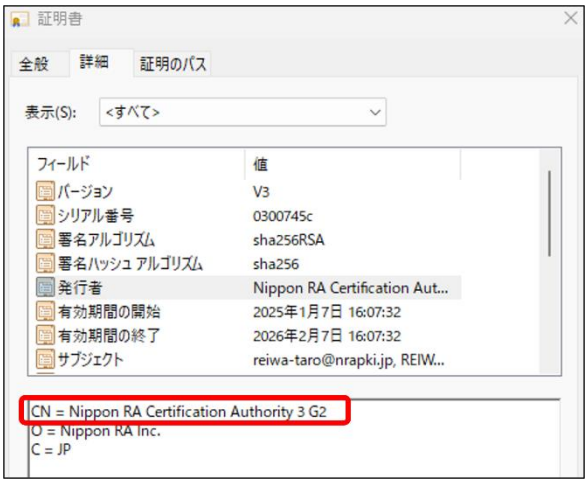
CN=Nippon RA Certification Authority 4 G2

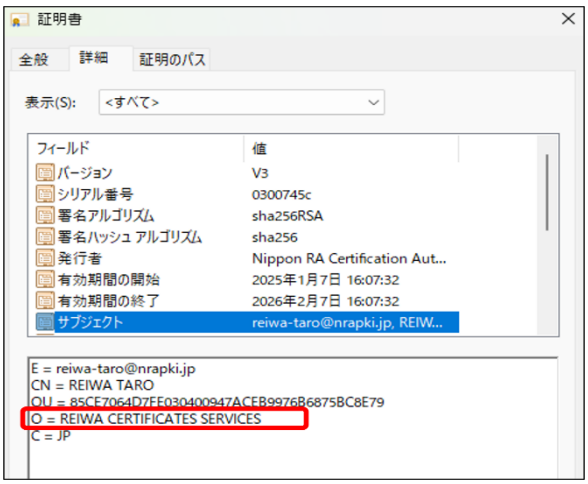
（２） 条件に合致した証明書（ここでは「レイワ証明書サービス」社が管理する証明書のみ受け付けます）

O=REIWA CERTIFICATES SERVICES

【補足】

これらのレコードはクライアント証明書の下図の情報になります。





■nginx.conf 設定ファイルの server セクション設定例

```
server {
        listen 443 ssl;

        server_name   xxxx;     #環境に応じて設定

        ssl_certificate           /etc/nginx/temp/server.crt;
        ssl_certificate_key       /etc/nginx/temp/server.key;

        ssl_verify_client on;
        ssl_verify_depth 3;
        ssl_client_certificate /etc/nginx/temp/nra.crt;          ―― (A)

        <Location /仮想ディレクトリ/(パス 1|パス 2|パス 3)>     #環境に応じて設定      ―― (B)

            if ($ssl_client_i_dn !~ "CN=Nippon RA Certification Authority 3 G2"){
                return 403;
            }
            if ($ssl_client_s_dn !~ "O=REIWA CERTIFICATES SERVICES"){
                return 403;
            }

        </Location>

      location / {
            root    /usr/share/nginx/html;
            index   index.html index.htm;
      }
    ~~~~（以下省略）
}
```

【補足】

・Location は環境に応じて設定してください。

7. Appendix3（失効リスト（CRL）の設定：具体例）

「４．　失効リスト（CRL）の設定」について、具体的な値を用いた設定の説明は以下のとおりです。

① 配布ポイントから取得した DER 形式の失効リストを PEM 形式に変換しマージしたファイルを Web サーバに保存します（ここでは以下のとおりとします）。

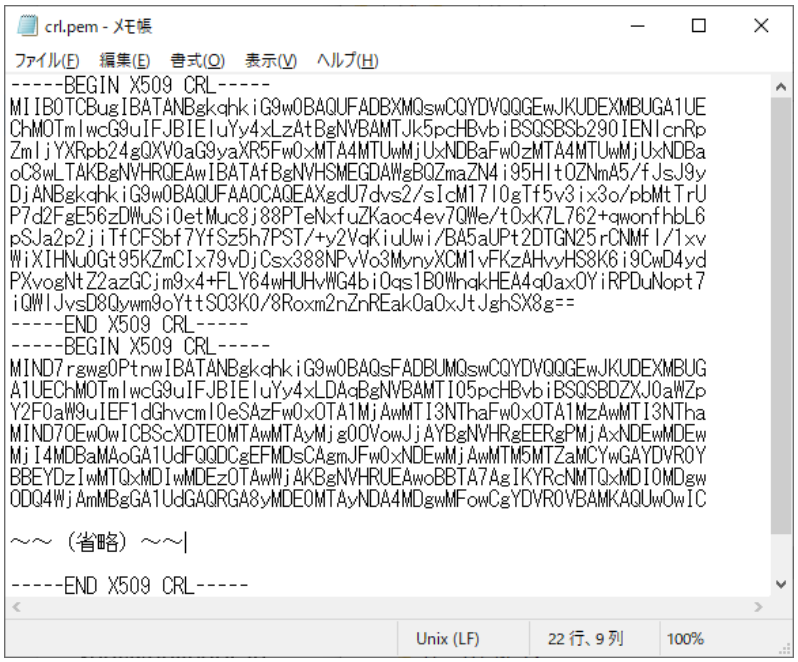
・失効リストファイル：crl.pem

・Web サーバでの保存先ディレクトリ：/etc/nginx/temp

失効リストファイル「crl.pem」は、ルート認証局と中間認証局それぞれの失効ファイルを PEM 形式に変換してマージしたもので、テキストエディタでオープンすると以下のようになります。

ルート認証局の
失効リスト

中間認証局の
失効リスト



② nginx.conf の server セクションにて以下のディレクティブで設定します。

■nginx.conf 設定ファイルの server セクション設定例

```
    server {
      listen 443 ssl;

      server_name   xxxx;    #環境に応じて設定

      ssl_certificate           /etc/nginx/temp/server.crt;
      ssl_certificate_key    /etc/nginx/temp/server.key;

      ssl_verify_client on;
      ssl_verify_depth 3;
      ssl_client_certificate /etc/nginx/temp/nra.crt;

      <Location /仮想ディレクトリ/(パス 1|パス 2|パス 3)>    #環境に応じて設定

            if ($ssl_client_i_dn !~ "CN=Nippon RA Certification Authority 3 G2"){
                  return 403;
            }
            if ($ssl_client_s_dn !~ "O=REIWA CERTIFICATES SERVICES"){
                  return 403;
            }

       </Location>

       ssl_crl /etc/nginx/temp/crl.pem;

       location / {
            root    /usr/share/nginx/html;
            index   index.html index.htm;
       }

  ~~~~（以下省略）

}
```

③ 配布ポイントの失効リストは適宜更新されますので、以下のとおりスクリプトを作成し Web サーバの失効リスト（crl.pem）も cron 等で定期的に自動取得＆更新するように設定します。

■スクリプト例

```
#!/bin/sh
cd /etc/nginx/temp/download
wget 'http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRARootCertificationAuthorityG2/cdp.crl'
openssl crl -inform der -in cdp.crl -outform pem -out crl_root.pem
wget 'http://mpkicrl.managedpki.ne.jp/mpki/NipponRACertificationAuthority3G2/cdp.crl'
openssl crl -inform der -in cdp.crl -outform pem -out crl_ca3.pem
cat crl_root.pem crl_ca3.pem > crl.pem
cd /etc/nginx/temp
rm -f crl.pem
cp -p /etc/nginx/temp/download/crl.pem ./
nginx -s reload
```

【補足】

・/etc/nginx/temp/download は、配布ポイントの失効リストファイルをダウンロードするディレクトリになります。スクリプトを実行する前にあらかじめ作成ください。

8. Appendix4（PEM 形式のルート・中間証明書）

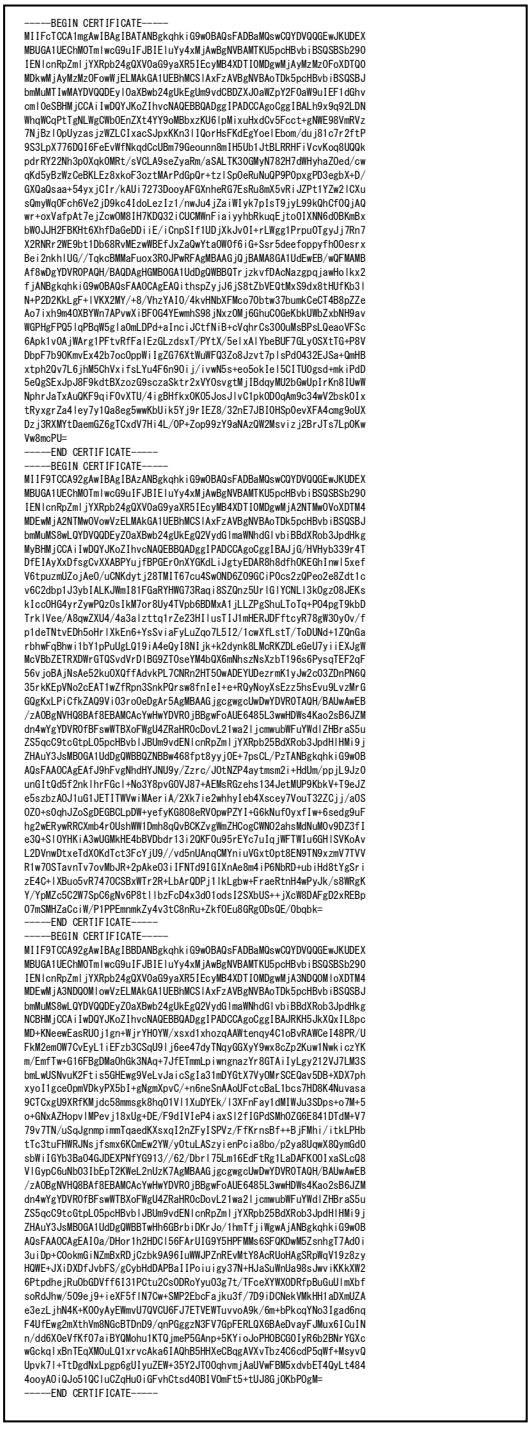
以下、リポジトリで公開するルート・中間証明書を PEM 形式にした内容です。

※上段がルート (G2)、中段が中間（CA3 G2）、下段が中間（CA4 G2）の証明書の内容となります。

ルートと許可する証明書の発行局のみ中間証明書として設定ください。

テキストファイルへコピー＆ペーストし、本手順を例に、” nra.crt”というファイル名で、

"配置 PATH”/nra.crt に配置します。



ルート証明書（G2）

中間（CA3 G2）証明書

中間（CA4 G2）証明書

【注意事項】

上記データをコピー＆ペーストしたとき改行が入らない場合があります。その時は PDF 資料を別のエディタ（Adobe 等）でオープンしてコピー＆ペーストしてください（改行が入らないと CA 証明書が nginx に正しく認識されません）。

9. Appendix5（中間認証局の確認方法）

下図の NRA-PKI システム管理画面にて、[利用者メンテナンス]をクリックしていただくと、適用されているサービス名が表示されます。サービス名の後に**（CA4）**という表記があれば CA4 G2、なければ CA3 G2 をご利用いただいております。

以上